

[水田作部門]

4. 高品質と安定収量が期待される「朝日」、「ヒノヒカリ」の籾数

[要約]

「朝日」では籾数が 24,000 ~ 29,000 粒/㎡程度、「ヒノヒカリ」では籾数が 25,000 ~ 30,000 粒/㎡程度であると、収量を確保しつつ、高品質が期待できる。

[担当] 作物研究室

[連絡先] 電話 086-955-0275 (作物・経営研究室)

[分類] 情報

[背景・ねらい]

県中南部の主要品種「朝日」、「ヒノヒカリ」では、近年、異常気象による品質や収量の低下が懸念されている。そこで、異なる環境条件下における㎡当たり籾数と品質、収量の関係を明らかにし、今後の肥培管理の適正化や玄米品質の向上に資する。

[成果の内容・特徴]

1. 「朝日」は、籾数が 24,000 粒/㎡以下になると 500kg/10a 以下に減収しやすい。㎡当たり籾数が増加すると収量は増加するが、それに伴って未熟粒率も高まり、29,000 粒/㎡以上では未熟粒率が 20% 以上になるおそれが高まる (図 1、図 2)。
2. 「ヒノヒカリ」は、籾数が 25,000 粒/㎡以下になると 500kg/10a 以下に減収しやすい。㎡当たり籾数が増加すると収量は増加するが、それに伴って未熟粒率も高まり、30,000 粒/㎡以上では未熟粒率が 20% 以上になるおそれが高まる (図 1、図 2)。
3. 同じ㎡当たり籾数でも出穂後が寡照になると、「朝日」、「ヒノヒカリ」とも未熟粒が多くなる (図 3)。

以上の結果から、「朝日」では籾数が 24,000 ~ 29,000 粒/㎡程度、「ヒノヒカリ」では籾数が 25,000 ~ 30,000 粒/㎡程度であると、収量を確保しつつ、高品質が期待できる。また、出穂後の寡照では、両品種とも品質が低下しやすい。

[成果の活用面・留意点]

1. 未熟粒率が 20% を超えると検査等級が低下しやすい。

[具体的データ]

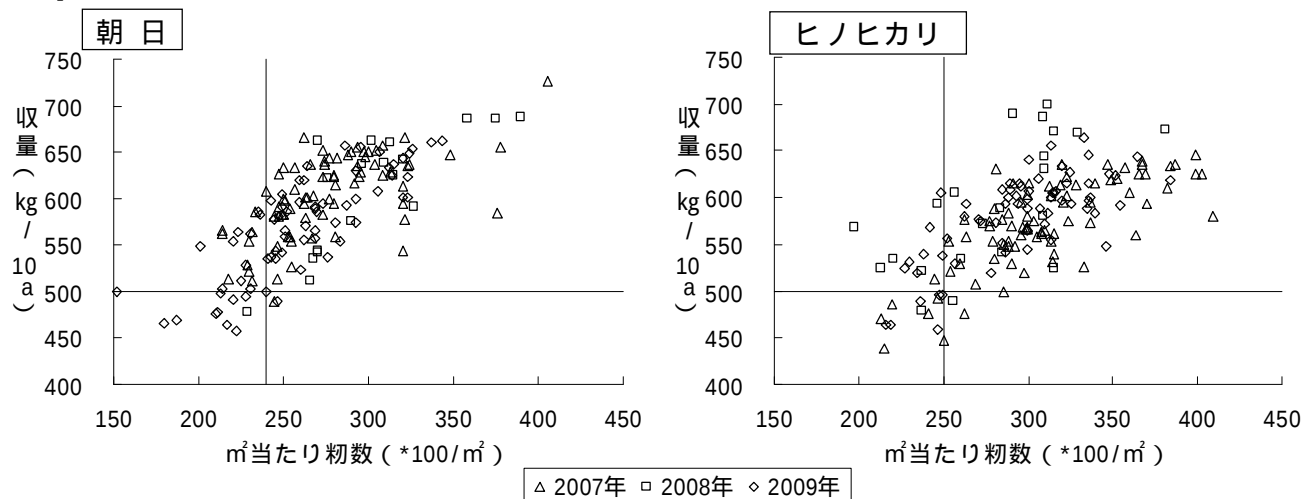


図1 粒数と収量の関係 (2007年～2009年)

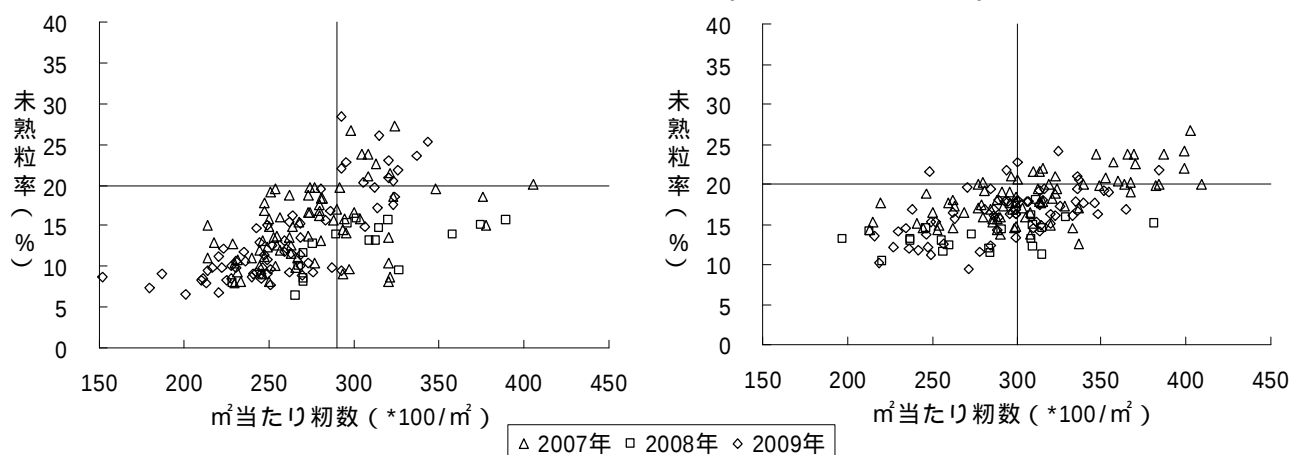


図2 粒数と未熟粒率の関係 (2007年～2009年)

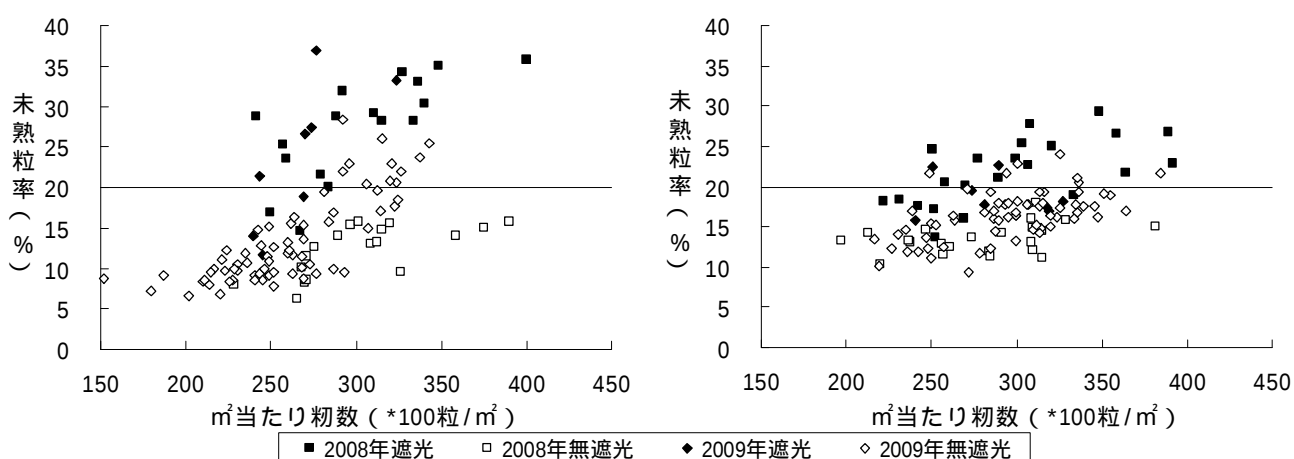


図3 寡照条件下における粒数と未熟粒率の関係 (2008年、2009年)

注) 遮光率 50%の寒冷紗で出穂後約 20 日間被覆

[その他]

研究課題名: 温暖化に対応した水稻「朝日、ヒノヒカリ」の良食味栽培技術の確立

予算区分: 県単

研究期間: 2007～2009 年度

研究担当者: 宮武直子、井上智博、大久保和男、新見敦

関連情報等: 平成 21 年度試験研究主要成果、5-6